

平成9年4月13日、午後3時48分、2998グラムで産声をあげた我が家の跡取り息子、大樹。いたずら盛りのわんぱく坊主。

妊娠28週の検診で男の子である可能性大と判明。上の子は、女の子だったので跡取り息子の誕生となるわけです。それから、名前を考える日々がやってきました。



この子の親となる、とうさんが長距離トラックのハンドルを握り、九州大阪へと走りながら、名前の本を片手に、検討した結果、大樹となりました。

大樹とは、大地の大と樹木の樹からなる訳ですが、走りながらトラックの窓から見る景色の中で、大地に咲く花々、大地に根を張る樹々、樹々の緑、青い空、都会には無い自然を見ながら、この子も、自然を大切にし、自然を愛せる子になってほしい。これからの人生、山あり谷ありでも、大地に両足で踏ん張って立ち、大地に根を張らして倒れることもなく空に向かって悠々と育つ樹々のように、困難に打ち勝ち、目標に向かって進んでいってほしいと思い、大樹と名付けました。やさしく、素直な子に育ててほしいと思います。(母)

うちの大樹くん(現在1歳2カ月)の場合は、パソコンの命名ソフトがきっかけでした……。周囲の人にこれを言うと、「かわいそうだから本人には言わない方がいいよ」と忠告をいただきますが、決して手を抜いた訳ではありません。いい名前を付けたいという思いは強く、まずは名字にあう、画数のいいものを見てみようかと検索してみると、100以上も名前が並びました。その中の「大樹」は、新米パパ・ママ2人共に1番ピンとくるものです。有力候補として挙げられたけれど、とにかく生まれてきて顔を見てからということになりました。



初産にもかかわらず、陣痛室に入って1時間半程で元気に出てきた男の子は、すぐにおっぱいに吸いつくようになりました。必死でかぶりついている顔を見た時、私の中で、「ああ、大ちゃんって顔している」と感じたのが決定打になりました。思い入れが後から追っかける形になってしまったけれど、「樹」という字には(大きな木に)人が寄り集まるという意味があるようで、皆に好かれ、周りに人が集まるような人になって欲しいという思いを込めました。

「大樹」と名付けて小さい子だと困るなと思いましたが、今のところ名前にふさわしく、しっかり大きくなっています。また、名前にちなんで、大樹になるイチイの樹も記念に植えました。でも大樹といえばやっぱりイメージはハルニレの樹も記念に植えました。でも大樹といえばやっぱりイメージはハルニレの木でしょうか。是非大樹町を訪れる際には、ハルニレの木を見たいと思っています。

ところで大樹くん、親としてはいろいろ考えたつもりだけど、将来やっぱり「パソコンで付けた名前」に不満を持ちますか？

(母)

僕の名前は「大樹」と書いて「だいじゅ」と読みます。“寄らば大樹の蔭”という言葉があるように、僕にもたくましい大樹のようになって欲しいと言う願いがこめられています。僕には2人の姉がいて名をルミ子と雅子といいます。長女ルミ子は父の名前の満、ミツルを逆にしただけのもので次女雅子は可愛い女の子になる様につけました。この2人に比べると両親は僕の名前を決めるのにとっても慎重になっていました。待望の男の子が生まれた喜びに、名前にもかなりこだわったと言う事です。



“大樹”には他の重要な意味がこめられています。1600年関ヶ原の戦いで徳川家康が勝ち、戦国時代の乱世に終止符を打たれました。その後の平和な時代、家康は征夷大將軍またの名を大樹將軍と呼ばれていたのです。僕の父は大の歴史好きで歴史小説を愛読しています。特に徳川家康で“大樹公”からこれしかないという事です。家康の様に立派な人になってほしいという僕にとってはとてもヘヴィな意味がこめられているのです。

母はよく僕に「名前負けねえ」と言いその後「冗談よ」とすぐフォローを入れますが、これはかなり本気も入っている事でしょう。そして休日はサイクリングを楽しみ平日は日本の一サラリーマンとして長時間の残業とラッシュの通勤電車にもまれくたつとして疲れまくっている僕は母の言っている事が、もっともだと言えない事もないのです。

そんな僕でも1つ母親孝行していると思えるのはやはり名前の大樹です。母の旧姓は「廣本」ヒロキと読みます。“大樹”はヒロキと読ませる事が出来ます。実家に強烈な愛着のある母は僕の名前に大喜びです。

普段は当然名前の事など忘れ呑気に楽しく著しています。明日は大きな樹になりたいと思います。日本中の大樹さんどうぞよろしく。

わが家は男の子2人、年子の兄弟です。まさか年子で2人目を産むことは思っていないので、かぜだと内科に行って注射をして、薬をもらってのんでいました。その後妊娠がわかったのですが、のんでしまった薬も、うってしまった注射も胎児にはとても悪いものとわかり、最悪の場合は、障害をもった子供になる可能性が大きいと言われて、かなりなやみました。でもどのような子供が生まれても大切な自分の子供には、かわりはないし、上の子供と同じくかわいがっていける自信も、もてたし、殺してしまうほうがもっと残酷だと思い産む決心をしました。本当なら私の希望としては、2人目はぜったい女の子と考えていたのですが、最悪のことを考えると、2人目も男の子のほうが年子だし兄弟助けあって成長してくれればと思い、男の子を望むようになりました。8ヶ月目に入ったとき幸い望みどおり、男の子だとわかり名前を考えました。本屋さんで毎月のように行ったり、いろいろなことを考えました。最悪のことを考え、どのような形で生まれてきても私達の大切な子供です。どんなことにもまげず、とにかく大きな樹のようにどっしりとかまえていければ私達がまもってあげるから、なにもこわがらずにがんばって成長してほしいと願い“大樹”と命名しました。その日からもう6年もたちますが、わが家の次男、大樹は毎日真黒に日やけをして、元気いっぱい自転車でお兄ちゃんと走りまわっています。“お前は1番うるさい”とか“ちよろまつだ”なんて言われてもどっしりとかまえ、びくともし



ません。またどこに行っても物怖じせず名前のおり成長してくれました。とって手のかかる子供ですけど来年は1年生、これからも元気いっぱいの大樹でいてほしいと思います。(母)

東京都立川市の大樹さん

特別住民番号153

大地に広がる樹木のように心の広い逞しく育てほしい。(父)



群馬県高崎市の大樹さん

特別住民番号154

我家の大樹(たいき)は現在小学5年生の、育ち盛り・食べ盛り・生意気盛り真っ只中の3人兄妹の長兄です。

思えば22年前、私(大樹の父)が自転車で日本一周の旅をしている際に資金が底を突いたため、帯広在住の叔父宅1カ月程資金稼ぎのアルバイトをするために居候をしておりました。



その叔父が無類の釣り好きのため、居候中毎週末のように浜大樹から広尾にかけての海岸へ連れ回され、釣りに付き合わされたものでした。

帯広から海岸へ道中、愛国・大正・幸福とその当時幸福ブームの真っ只中であり、それらの地名は東京生れの私でも知っている程で、思わず愛国から幸福行きの切符を買ったことが記憶に残っています。

その当時の大樹町への印象は、大樹駅前(当時の国鉄広尾線)の売店の品揃えが充実していたのと、町名の呼び方の響きの良さが残っていることでした。(当時から「たいき」と読むことは知っていました)

それから経つこと11年後の昭和63年9月25日に私たち主婦に待望の第一子が生まれました。

出産前から妻とは男の子だったら樹の文字を入れた名前を付けることで一致しており、ならば沢山の人がその子の回りに集まるような人になって欲しい、また大きな樹のように逞しく育て欲しいとの願いから、寄らば大樹の…から名前の漢字を大樹とすることに決めました。

そして呼び方は一も二も無く、大好きな北海道のそれも青春時代の一時に係わった大樹町から「たいき」とすることに決めました。

現在の我家の生意気盛りの大樹の夢は、自分の名前の由来となった大樹町へ行き、伏見町長と握手をし、入浴の権利を頂いた町営温泉に入り、太平洋を望みながらカニを食べることだそうです。

なるべく早くその夢を叶えてあげ、一生の思い出としてあげてを願う今日このごろです。(父)

ぼくは、昭和61年4月6日釧路生まれの中学校1年生です。

残念ながら大樹町生まれではありませんが、1度小学校低学年の時に、帯広や忠類町、グリェック王国、そしてぼくと同じ名前の大樹町に家族全員で行きました。ぼくは母から、「大樹と同じ名前の町だよ、どんな所なんだろうね」と言われて胸がドキドキしたことを覚えています。



大樹駅の前で記念写真をとってもらい、ぼくのアルバムの中にはいつてありません。

さて、名前の由来は、ぼくが生まれた時2200グラムと小さくて、祖母はとても心配しました。まい日、「大きくなれ、大きくなれ」と頭や足をさすってくれたそうです。そして親せきの方が、ぼくの生まれる少し前に夢の中で「たいき、たいき」と呼んで、ぼくがまだ母のおなかにいるのに、親せきの方の夢の中で遊んでいたそうです。それで母と祖母はたいきという名前にしたそうです。ただ漢字を決めるのにすごく悩んだそうです。祖母はぼくが小さかったので大きくなるように、大地にしっかり根をはって、樹木の「樹」をつけようと、「大樹」に決まったそうです。祖母といってもぼくは初孫でまだ40代だったので祖母の事を「お母さん」とよんでいます。祖母と母がつけてくれた名前のおりの人になるよう、健康、勉強、思いやりをもってガンバリたいと思います。

大樹の父親です。大樹は、長男(琢磨)、長女(やよい)に次ぐ3人目の子として生まれました。私は生まれてきた子に多くの人々に頼られるような人間になって欲しいとの夢を託し、「寄らば大樹の陰」の言葉から「大樹」と名付けました。そのとき私が思い浮かべたのは、大きく枝を広げた、あの日立のTVコマーシャルの樹でした。



「大樹」という名前には、いろいろな読み方がありますが、「タイキ」と呼ぶことにしたのは「大器」と称される人物になって欲しいとの願いもあつてのことです。多くの人々に安心を与え、頼られるような「大樹」、そして「大器」ずいぶん欲張った夢を子供に背負わせたものだ、今更ながら己の苦気(?)の至りを苦笑する次第です。

大樹が3歳になると、上の兄姉とともにキャンプ、スキー、山登りへと引っ張り出し、我が家のアウトドア・ライフが本格化しました。6歳で駒ヶ岳にも登りました。兄姉と同じことをしたくても、いつも一、二歩遅れてしまい、「タイキ晩成」と揶揄されながらも、半べそをかきながら、あるときは歯を食いしばりながら上の子供たちに遊んでもらっていた大樹も今年は中学生。ちょっぴり厳しくなった学校生活も、持ち前のノビノビした性格でエンジョイしながら頑張っている様子です。

「大樹」「大器」になれるかどうか、それはわかりません。でもただ1度の人生を精一杯生きてほしい…と願いながら、親の私は失敗を繰り返しながらも、日々の仕事に頑張っています。今の私達には、そんな姿を子供達に見せてやることしかできません。高校生の兄姉の過密なスケジュールに合わせながら、我が家のアウトドア・ライフは細々と継続しています。(父)

ぼくの名前は、大樹と書いて「ひろき」と、読みます。どうして「ひろき」に決まったのか、簡単に説明しますね。パパとママは、ぼくがママのおなかの中にいる時から、名前を考えていたみたいだったんだ。でも、どう考えても、ピンとくる名前が出てこなかったみたい。最後には、「キャサリン」とか、「カリリーヌ」とか、外国の女の人の名前になっちゃってぼくはドキドキしてたんだ。本当に「ひろき」でよかったよ。



パパとママが考えていたのは、その日1日だけで、ぼくが産まれてくるまで結局名前は決まらなかったんだ。そして平成7年4月5日、午後6時39分、ぼくはパパとママの所に産まれてきたんだ。東京のおばあちゃんも、岩内のおじいちゃんも、すごく喜んでくれたんだよ。で、名前ははどうしよう?となった時、ママの妹の幸恵姉ちゃんが、いろんな名前を考えてくれたんだ。その頃、パパも考えてて偶然「大樹」が一緒だったの。「ひろ」って呼びやすいし、大きい樹のように大きく、たくましい男の子に育ちますように、ってことで、この名前になったんだって。

ぼくも4才になって、毎日元気に保育所へ行ってます。ママたちが願ってたように、他の4才のお友達よりも大きくなって、身長1m7cm、体重20kgになりました。毎日、ママのもう一人の妹麻世姉ちゃんに怒られているけど、全然気にしてないの。今は、おじいちゃんと一緒にいるから、毎日遊んでもらっているんだ。これからも、たくさんいたずらをするけど、みんな、ゆるしてね。ぼくはみんなが大好きだからさ。ひろき

…と、思ってくれるといいんだけどな…(母)

♪この木、何の木、気になる、気になる 皆が集まる木ですから、皆が集まる木になるでしょう♪ CMソングとしてテレビよりこの歌詞が流れていた頃に、待ちに待った長男が誕生しました。以前よりこのCMソングを耳にしていた筈なのに、子どもが生まれ、名前をどうしようかとあれこれ迷っていた頃に、ふとこのメロディを聞き、「あっこれだ!!」と直感しました。他にも候補はいくつかありましたし、字画で悩んでいた事もすっかり忘れてしまう程でした。そしてテレビの映像に、葉を満々とたたえた大きな木が映し出された時、「これしかない」…大樹!!一瞬のひらめきでした。大木には、鳥たちの群れがきては羽を休め、また別の群がきては、賑やかにハーモニーを奏でている。そんな中には、子育てをしているカップルもいたり、これからペアになろうとするものもいたり、とにかく美しい。また嵐がきた時には、風雨を避ける。最適の場所を提供してくれる。自然界にはなくてはならない、オアシスです。人類の英知を結集しても、自然の偉大さにはかなわない。かなうどころか愚かな人類は自然を破壊し、取り返しのつかない事を平気でしている。何と愚かな事だろうか。息子に託していきたい。「君自身が良ければ他はどうなっても構わない。というつまらない人間だけにはなってくれるな。」人を愛し、失敗を愛し、自分を愛せる。そんな人として生きて欲しい。傷ついた人には、優しくそっと手を差しのべて、救いを求める人には、暖かな心でもてなして、皆の心の拠所となって欲しい。それが



君の誕生の時、私達が願ってつけた名前なのだから。…大樹 頑張れ!!(父)